

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑰ 特許出願公開
 ⑰ 公開特許公報 (A) 昭55—133950

⑮ Int. Cl.³
 B 32 B 5/18
 3/30 識別記号 廷内整理番号
 7603—4F
 7166—4F ⑯公開 昭和55年(1980)10月18日
 発明の数 1
 審査請求 未請求

(全 2 頁)

④型材

⑤特 願 昭54—41121
 ⑥出 願 昭54(1979)4月6日
 ⑦發明者 満尾浩治
 東京都杉並区永福3丁目37番12号
 ⑧發明者 満尾ミツ子

⑨出願人 満尾浩治
 東京都杉並区永福3丁目37番12号
 ⑩出願人 高津和夫
 横浜市港南区笹下町2559番地

No.1

明細書

1. 発明の名称

型材

2. 特許請求の範囲

発泡スチロール板の上に凹凸模様を施し、その表面に撥水性層を設けて有ることを特徴とする型材。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、発泡スチロール板の上に凹凸模様を施し、その表面に撥水性層を設けて有ることを特徴とする型材に関するもの。

以下本発明を添付図面の実施例を参照して説明されば、第1図は表面に熱処理、削刻その他の方針で凹凸模様を施した発泡スチロール板の、凹凸模様を施した面全面に亘り液状撥水剤を吹付け塗設して含浸せしめ、乾燥させて撥水層を構成した型材1例を示す。

第2図は、一側の合板型枠3の内側に上記型材を接着剤等を利用して貼着し、他側の合板型枠3との間にコニクリート4を打設した所を示す。

No.2

し、コニクリート4の硬化後型枠3・3'を除去すると、型材は型枠3と同時に除去されてコニクリート表面に美しい凹凸模様が転写される。

本発明においては撥水性層を構成するに、発泡スチロール板の凹凸面に石鹼水溶液、信越化成工業株式会社製ホーロンC等のミリコングリセリン系撥水剤水溶液、ステアリン酸またはステアリン酸塩等の金属石鹼水溶液、またはこれらの中の混合物、或いは燃焼性ハラフィン等の液状撥水剤を直接吹付け塗設して乾燥させてもよく、土記液状撥水剤がまたはステアリン酸等の粉状撥水剤を、合成ゴム系エマルジョン、合成樹脂系エマルジョン、またはこれらの混合物を吹付け塗設した上に吹付け塗層し硬化させてもよい。また合成ゴム系エマルジョン、合成樹脂系エマルジョン、またはこれらの混合物に撥水剤を混合したもの、直接吹付け塗設するか撥水剤を混合した土記エマルジョンを吹付け塗設した上から吹付け塗設して硬化させ、薄い可撓性撥水層を構成してもよい。尚下地層を形成

あるエマルションにはナトリウムラロース水溶液を混和して接着効率を大とすることができる。

また信越化学工業株式会社製RTレゴムを凹面に直接かまたは接着剤層を介して薄く塗設して硬化させてもよく、RTレゴムが溶剤率の時は、(凹凸面)に溶剤に溶けた合成ゴム等が合成樹脂等の被膜層を構成してあり、その上にRTレゴムを吹付け塗設して硬化させてもよい。尚合成樹脂等エマルジョンには両液性ビニール樹脂エマルジョンやアクリル樹脂等エマルジョンが使用され、エマルジョンにはその硬化を早める目的で、可撓性を失なわぬ範囲でセメントや石膏等の水硬性無機化合物を混合することができる。

従来、発泡スチロール板に凹凸模様を施し、該板を型材としてコニクリートや石膏を成形し、硬化後離型してなる凹凸模様乾式法が知られてゐるが、発泡スチロールがコニクリート等に付着して残存し、このためコニクリート等の表面に付着した発泡スチロールを溶剤で溶かしたり、

バーナー焼融除去しなければならぬ等の欠点があった。本発明は上記に似たものであり、離型良好で発泡スチロールがコニクリート等に付着して残存するよう考慮したことなく、型材を何回でも繰返して使用することができる効率を有し、この種の型材よりコニクリート等に比し価格も低廉であり、コニクリート等の型材として広く用途に供することができる。

尚本発明における型材は発泡スチロール板を基材とするものを凹凸面を有するものに限定されるものではなく、基材を合板、金属板、合成樹脂板としたもの等にも適用あることである。

4. 四面の簡単な説明

添付図面は本発明の実施例を示すものであつて、第1図は型材1例の断面図、第2図は型材を利用してコニクリートを打設した所を示す側面図である。

特許出願人

溝尾浩治

高津和夫



第1図



第2図

